

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 56 2018年3月3

1日

目 次			
平成30年度総会案内	1	小児言語委員会情報交換会報告	7
理事会より	2	施設紹介	8
学術局より	3	臨床こぼれ話	9
生涯学習プログラム報告	4	各委員会・作業部会から	10
認知症専門職研修会報告	5	事務局より	17
千葉POS介護予防専門職育成研 修会報告	6	理事会・委員会等議事録	18

◇ 平成30年度総会案内 ◇

第7回総会のお知らせ

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第7回総会を5月27日（日）に開催いたします。言語聴覚士が活躍する領域も多岐にわたるようになり、かつ職種をこえた連携も必要となっています。職能団体として、さまざまな社会的ニーズに対応していかなければなりません。総会は今後の方向性を決める重要な場です。お忙しいかと思いますが、会員の皆様の出席を賜り、これからの活動に活かしていきたいと存じます。ぜひ、ご出席くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、総会議案書と出欠票・委任状は4月下旬に発送予定です。当日欠席される方は委任状の提出をお願い致します。

日時：平成30年5月27日（日）13：00～14：00

場所：千葉市民会館 3階 特別会議室

（総会終了後、平成30年度第1回研修会と新人歓迎をかねた懇親会を開催します。引き続きご参加ください。）

◇ 理事会より ◇

＊＊会費の安定した納入のためのお願い＊＊ 会長 吉田

浩滋

お気づきになられたでしょうか、県士会のニュースの紙質や印刷の変化に。経費節減のため印刷業者を、以前の依頼先に戻しました。画像がきれいに印刷されるようにという思いから、費用が少し高めのところにしたのですが、送料の値上げを契機に、経費削減のために前の印刷業者に変更いたしましたので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

なぜ、このようなことを行うのかといえば、前身の任意団体の時代から数えると20年近く活動続けてきた県士会の会費の納入状況が安定しないからなのです。実は、県士会の会費収入は、200万円に届くほどの会費納入があった年度もあれば、100万円をほんの少しだけ越えた年度もありました。

その差は約90万円。このように会費納入額には大きな変動があります。これは、会員が着実に増えている一方、そのことが会費収入の増加に結びついていないということを示しています。

総会資料の財産目録をみると、会費の未収金が100万円以上もあることがわかります。つまり、年度末までに翌年度の会費を納入していただけていない方が会員の半分以上もいることになっています。

そのうちの約20万円は2年目の滞納額ということになりますので、2年分を納入いただけていない方が50名以上いることになります。会員は約400名ですから、50名というのは小さな数ではありません。この間、災害リハ委員会、地域リハ委員会、吃音症委員会が新たに設置され、高校生や社会人向けの言語聴覚士のいる職場体験も実施し、来年度は「失語症者向け意思疎通支援事業」の実施にかかわる作業部会を設置する予定になっています。こうして県士会の活動量が増え続け、それに伴い、担当する委員の皆さんの交通費や、資料の発送にかかる通信費は増える一方です。当然、節約をされているものもあれば、自分のポケットマネーで処理していることだってあるでしょう。

正直に申しまして、増える活動、変動幅がある会費納入状況等によって、県士会の財布が心配という状況が顕在化しつつあります。そこで、理事会では、財政の担当者が未納会費の督促を行っています。

しかしながら、これは財政担当理事の負担になっております。会員の皆様お一人おひとりが会費を期日までに納めていただくことで、この労力は軽減できます。

200万円近い会費収入があった年度、これは督促に力をいれた年度でした。財政担当理事が苦労を重ねて集めることで達成した数字です。でも、理想は財政担当理事が督促作業で苦労をせずとも、期日までに会費が納入されることです。

当然ながら、県士会の会費値上げも検討中ですが、大きな額の値上げは避けることにしております。

しかし、値上げをしても、督促が必要な状況では、県士会の財布の安定はしません。ここはぜひとも、安定した県士会の活動のために自動引き落としか、年度末までの会費の確実な納入をお願いいたします。

また、これを機に、自動引き落としを検討いただけないでしょうか。ゆうちょ銀行に口座が無いのでできないし、ゆうちょ銀行に口座を作るとは考えていないという方は、3月までに次年度の会費を確実にいただけると幸いです。これは、県士会の安定した活動を維持するためのお願いです。ご検討をよろしくお願いいたしますとともに、来年度分の会費の納入を3月末日までに完了いただけますように、重ね

てお願い申し上げます。

◇ (株)エスコアールが、平成29年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣「優良賞」を受賞 ◇

このたび、当会の賛助会員である株式会社エスコアールが、平成29年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰内閣府特命担当大臣「優良賞」を受賞されました。

心からお祝いを申し上げますとともに、今までのご尽力に敬意を表します。



代表取締役 鈴木 弘二 様



授賞式の様子



◇ 学術局より ◇

学術局 清宮 悠人

平成30年度第1回研修会のご案内

新しい年度の第1回は「診療報酬・介護報酬から見えてくるもの、今後の在宅リハビリテーションの課題」をテーマといたしました。今回は、日本訪問リハビリテーション協会副会長の山口勝也先生をお招きし、同時改定となりました診療報酬・介護報酬を読み解きながら、今後の課題をご解説いただきます。

日 時： 平成30年5月27日（日） 14:15～17:00

会 場： 千葉市民会館 3階 特別会議室

参加費（資料代含）： 正会員・準会員：500円

会員外：2,500円 学生およびPT・OT県士会員：1000円

※日本言語聴覚士会 生涯学習プログラム参加ポイント対象研修

※年会費未納入者は会員外料金となりますので、ご注意ください。

プログラム：

I. 講演 [14:15～15:45]

「診療報酬・介護報酬から見えるもの、今後の在宅リハビリテーションの課題」

講師：東京ふれあい医療生協 梶原診療所 言語聴覚士

日本訪問リハビリテーション協会 副会長

山口 勝也 先生

II. 懇親会 [15:50～17:00]

申込方法：申し込みフォーム <http://chiba-st.com/> よりお申込みください。

申込締切：平成30年5月20日（日）

皆様のご参加をお待ちしております。

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

※「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成29年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座 千葉県版を実施

今年度の講座は、平成29年11月19日・23日に千葉市民会館で行いました。

基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と当県士会が独自で企画した1講座（「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸 先生）の合わせて7講座、専門講座は1講座（「地域包括ケアシステムと言語聴覚士」介護老人保健施設 マロニエ苑 リハビリテーション室 黒羽 真美 先生）の講義でした。なお、今年度も基礎講座の講師は千葉県内で活躍している言語聴覚士の方々に担当していただきました。基礎講座は各講座とも熱心な受講者が多く、また講師の先生方も熱意のある丁寧な講義を展開していただきました。

黒羽先生の講義風景

景

黒羽先生の講義では、地域包括ケアシステムの基礎的なところから、将来的に求められている言語聴覚士の職域について丁寧に解説していただきました。また、平成30年度に行われます診療報酬改定についての内容も一部解説して



いただきました。受講者からは「地域包括ケアシステムの中で言語聴覚士が何をするのか理解できました。」「新たな視点として地域包括ケアシステムについて学びました。」

「今後の日本が進む情勢に言語聴覚士はどのように関わり、どのようなことができるのか所属する職場・地域で考えてみたいと思います。」など多くの感想が寄せられました。

受講者は千葉県内・県外合わせて60名程の参加があり、そのうち2割の方は県外からの参加でした。来年度は平成30年11月18日（日）、23日（金・祝）基礎講座・専門講座を実施することが決定しています。なお、会場は千葉市民会館です。

経験の浅い言語聴覚士の皆様が、臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。また、認定言語聴覚士の受講資格（専門講座終了者）にも関わっております。是非、皆様の参加をお待ちしています。

（生涯学習プログラム作業部会長 西本 高道）

◇ 認知症専門職研修会報告 ◇

本年度も、基礎コース：平成29年8月5日6日、応用コース：10月29日、11月19日、12月3日の計5日間にわたり、八千代リハビリテーション学院にて、認知症リハビリテーション専門職研修が開催されました。

この研修は、千葉県作業療法士会を中心に3士会協同で企画・運営をしており、近年の認知症対策の一環である認知症コーディネーターの育成や、認知症に対応できる技術をもったリハビリテーション職種の育成を目的としています。

基礎コースには、PT54名、OT39名、ST7名と計100名が参加されました。講義内容は、診断や治療、対応方法などの基礎知識だけでなく、認知症に関する行政の仕組み、ご家族の声、認知症リハビリに取り組んでいる施設の紹介など、認知症を取り巻く現状を理解するための充実したカリキュラムとなっていました。

応用コースは、定員50名を越える多くの申し込みがあり、PT36名、OT26名、ST5名の計67名が参加されました。認知症の評価、嚥下障害、権利擁護など、多職種、多分野の視点から認知症を学び、グループワークによる事例検討も多く行われました。PT、OT、STの3職種によるグループワークは、それぞれの視点から熱気に満ちた意見交換が行われました。

来年度も同様の研修会が行われる予定です。昨今の認知症に対する関心の高さから、様々なところで認知症に関する研修会が開催されていますが、リハビリテーションの視点から学べるものは多くありません。STは高次脳機能障害のスペシャリストとして、活躍が期待されています。今後さらに加速する高齢化に向けて、認知症の知識の向上、認知症リハビリテーションの発展は大きな課題となることと思

います。この研修会が皆様の臨床の一助となれば幸いです。

(東邦大学医療センター佐倉病院 治田 寛之)

◇ 千葉POS介護予防専門職育成研修会報告 ◇

地域リハビリテーション委員会

介護老人保健施設佐倉ホワイエ 平澤 美枝子

この研修は、千葉県医療介護総合確保基金事業として昨年度に続き、平成29年度も3回の研修が開催されました。主催は、平成28年1月に設立された千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議(千葉POS)で、私はワーキンググループに所属し、これまでに5回の研修会に参加しました。

研修は、年度内は同じ構成ですが、回毎に異なる講師をお招きしているので、内容はいつも新鮮です。

しかも、介護予防事業は次々と新しい取り組みがなされているため、同じ講師の方であっても新たな情報がいただけます。

今年度は、松戸・市原・茂原の3カ所で開催し、研修の構成は、①介護予防事業の行政説明、②事業に対し市・法人・現場はどのように関わったか、③県内PT、OT、STの取り組みの紹介、④模擬地域ケア個別会議(グループワーク)となっていました。

1月6日開催の研修では、県の方から現在の社会情勢として少子高齢化、予算や労働力不足、住民が主体となって活動できるための手助けがリハ専門職には求められていることなど説明がありました。具体例として、千葉市の事例が市・法人・担当したPTから共同で報告されました。千葉市においては市の事業に対し法人が提案をし、案の採用後は市がサポートする流れであったとのことでした。他には、広域支援センターが中心となって市に協力している例や法人独自に関わった例、リハ専門職が協議体を作り市と協力している例があり、それぞれ、専門職として具体的にどのように住民と関わったかの報告もありました。自分の地域と照らし合わせ、どの方法なら関わっていけそうか、沢山のヒントがありました。グループワークでは、事例を基に模擬地域ケア個別会議を行い、資料を短時間で読み込むこと、協調的に、具体的に(「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」)、専門用語を使わず簡潔に、展望も見据えて伝えることの難しさを体験しました。対策は施設内とは異なり、見守りや声かけが難しい居宅での工夫を多く知っていることが必要と感じました。

そして、研修後は講師の方も交えた懇親会も毎回開催されています。多くのPT・OTの方々とも知り合いになることができ、意外な一面を知ることもあります。講演では聞けない話が聞けることも…。仕事の悩みは尽きないのですが、皆様もたくさんのご苦勞をされていることをお聞きすると、まだできることがあるのではと思えるようになります。

新年度も地域リハビリテーション委員会では、介護予防に関する初期研修を予定しています。千葉POS主催の研修会も継続される予定です。まだまだ手探りではありますが、STが地域包括ケアシステムへの関わりを求められた時に役立つ研修会を開催していきたいと思いますので、皆様も是非ご参加いただき、情報や技術を共有していきましょう。

◇ 小児言語委員会 情報交換会・研修会報告 ◇

小児言語障害委員会は、10月15日、千葉市黒砂公民館にて情報交換会を開催致しました。はじめに当委員会で柏市の児童・放課後等デイサービスを対象に実施した「放課後等デイサービスの実態調査」の結果が、君津中央病院の金子 義信 先生より報告されました。デイサービスなどで対応に困っていることとしては、「コミュニケーションの取り方」「食べさせ方」「発語の促し方」などSTがアドバイスできる内容も回答としてあがりました。

続いて、委員と参加者からそれぞれの職場での活動や地域での活動、日々の臨床での悩みなど自由に意見交換を行いました。参加者同士でアドバイスをする様子が印象的でした。

参加者のアンケートから情報交換会は概ね好評をいただきました。毎年欠かさず参加して下さっている会員もいらっしやって、当委員会の情報交換会がとても役に立っているというありがたいお言葉もいただきました。まだ参加したことない会員の方がいらっしやいましたら、ぜひ一度ご参加ください。

また、平成30年2月12日に児童デイの職員へ向けたコミュニケーションをテーマとした研修会を開催いたしました。千葉県千葉リハビリテーションセンターの知念 洋美 先生を講師にお迎えし、前半では「コミュニケーションの基礎」についての講義、後半はグループに分かれてモデルケースを提示し、グループディスカッションを行いました。通所されているお子さんたちへの対応の工夫を話し合っただき、充実したディスカッションが行われました。アンケートでいただいた声の一部です。

- ・大変勉強になりました。最後の質疑応答もいろいろなお話が聞けてとても興味深かったです。
- ・言語発達、コミュニケーションのお話、大変興味深く勉強になりました。もっとたくさんのお話が聞きたいと思いました。
- ・現場に近いことや現場で活かせることを聞けて良かったです。グループワークもたくさんの意見交換ができ、知識を深めることができました。ありがとうございました。
- ・知念先生の講義は療育に携わる者の基本のキを改めて感じました。中級以上の内容も聞きたいです。
- ・言葉の出ない子どもに対して発語を促すような訓練の仕方などはないのでしょうか？そんな方法を知りたくて参加いたしました。

(小児言語委員会)





施 設 紹 介



国際医療福祉大学市川病院 (市川市) 小林 恵

当院は、北総線矢切駅より徒歩3分に位置し、1939年に当時国民病といわれた結核の化学療法研究を目的に設立されました。そして2017年4月、国際医療福祉大学が成田キャンパスに医学部を新設したことを契機に、2017年9月に化学療法研究所附属病院から、国際医療福祉大学市川病院として生まれ変わりました。一般病床137床、医療型療養44床、回復期リハビリテーション34床、結核45床の計260床からなる地域密着型の総合病院です。リハビリテーション科のスタッフは、PT 21名 OT 14名 ST 8名であり、急性期、回復期、療養、デイケア、訪問リハビリ、の幅広い領域で日々の臨床を行っています。

STは、ほぼすべての診療科より依頼があり、急性期では嚥下障害者、回復期は、失語症、高次脳機能障害、嚥下障害、構音障害者のリハビリを中心に行っています。また、今年からSTと看護部で協力し、嚥下ワーキンググループを立ち上げ、入院時より摂食・嚥下評価を行う事で誤嚥性肺炎や窒息の防止に努めております。当院の急性期、回復期を経て、外来でのリハビリやデイケア、訪問リハビリを利用される方も多くいます。

各病棟では月に1回カンファレンスが行われ、リハビリ全体では、月に1回の全体ミーティングと勉強会を開催しています。STの中では、週1回嚥下カンファレンスとミーティングを行い、状況を把握すると共に、よりよいリハビリを提供するために日々励んでいます。

山之内病院 (茂原市) 三好 沙織

山之内病院は一般病棟63床、療養型病棟54床、回復期リハビリテーション病棟20床で、併設施設として介護老人保健施設がございます。その中でも回復期リハビリテーション病棟は地域や近隣施設からのニーズにこたえ、当課も一から携わり平成26年に開設されました。リハビリテーション課は、亜急性期から回復期、生活期維持期でのリハビリテーションまで幅広く携わっております。STは、全ての病棟・外来で嚥下障害、高次脳機能障害、運動障害性構音障害等のリハビリテーションを行っております。外来では、近隣の急性期病院や回復期リハビリテーション病院からの紹介も多くあります。その他地域事業としては、茂原地区言語障害者友の会「ひばりの会」で補佐役を務めております。

課内の取り組みとしては、月に1度の課内勉強会に加え各チームでの症例検討会やミーティングを定期的実施しており、院外での研修会にも積極的に参加しております。STも持ち回りで勉強会を担当したり、他療法と一緒に症例検討を行ったりしています。職種間の壁はなく、分け隔てなく患者様の為、地域の為に話をすることができ、STは2名でありながらも周りのスタッフにとっても支えられています。このような環境に感謝し、患者様により良いものを提供出来るよう叱咤激励し合いながら、日々尽力しております。

臨床こぼれ話

★★★ 10年目の手習い ★★★

～成長を感じた瞬間とこれからの課題～

新松戸中央総合病院

嶋田 哲史

今回臨床こぼれ話のコーナーに執筆をというお話を頂き、何を書いたら良いものかと考えましたが、ここ最近の心境を書いてみようと思います。

私は千葉県松戸市にある333床の急性期病院に勤務しております。この病院には新人として入職し早10数年となってしまいましたが、入職当初は先輩がおり様々な事を教えていただきました。しかし私が3年目になると先輩が退職し、中途で入職したSTも私と経験年数が同じという体制になってしまいました。なんとか二人で業務を分担し業務を行って来たものの、私が8年目になると中途で入職したSTも退職し一人職場となってしまいました。STが二人から一人になるということは、担当患者が倍となり目の回るような忙しさで、目の前の業務をこなすことで精一杯となってしまいました。

忙しい中でも講習会や学会に参加していましたが、現場で指導してもらえる先輩がいない状況であり、日々の業務の中で自分が成長できているのか実感できず不安ばかりが募るという状態でした。

そんな状態の中、毎年開催されている日本高次脳機能障害学会主催の夏期教育研修講座に何気なく参加しました。この講習会は右も左もわからない新人の頃、「何か講習会に参加しなくては」という思いから、初めて参加した思い出深い講習会でもありました。

当時の私は勉強不足ということもあり、見聞きするもの全てが新鮮で、全くついていけなかったという苦い思い出が残っていました。しかし約10年ぶりに参加してみると講義されている内容に納得が行き、心の中で「そうだな」とつぶやきながら講義を聴くことができました。その時私は今までなかなか実感できなかった自分の成長を知ることができ、「少しは成長したな」と思いを巡らすこととなりました。

ここまでは成長の話を書いてきましたが、平成29年度は新人の時と同様に全くわからないことだらけと言う場面に遭遇しました。それは、平成29年9月に設立された「松戸市リハビリテーション連絡会」の準備委員会に参加した事から始まりました。会議中見聞きする事が新鮮であり、全くわからない用語や制度の話が飛び交うという場面に久しぶりに遭遇し、自分の了見の狭さを思い知らされました。

また松戸市リハビリテーション連絡会を通じて依頼があった地域ケア会議に参加させて頂いた際には、民生委員の方の「80歳代でこれは普通だよな」という言葉に衝撃を受け、自分はマイナス面ばかりを探そうとしており、「普通じゃない」という視点が全く持てていなかった事に気付かされました。

「現状維持は退化に等しい」この言葉は何かの折に私の先輩が仰っていた言葉です。これまでの成長とこれからの課題、決して現状維持とはならないよう、日々精進していきたいと思う一年でした。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎聴覚障害委員会より◎◎◎

三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

一側性難聴について

一側性難聴とは、片耳の聴力は正常で他側に難聴がある状態です。周囲が聞こえにくさを感じることは少ないですが、見えない困難を抱えていることが多々あります。

【原因・頻度】 奇形（外耳・中耳・内耳）、先天性サイトメガロウイルス感染症、ムンプス、髄膜炎、聴神経腫瘍、突発性難聴など様々です。頻度は1000人に1～2人程度です。

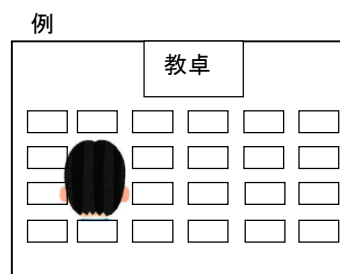
【困り感】 非良聴耳側からの音や会話の聞き取りの困難さ、騒音下での聞き取りの低下、音源定位に困難を生じることが多いです。良聴耳で聴取可能であれば、一側性難聴が日常生活や言語発達等に遅れを及ぼすことはないと考えられていましたが、学業や人間関係などに困難を抱えている児・者もいるので注意が必要です。

【配慮】 良聴耳側から情報が得られるよう、教室内では良聴耳側にクラスメイトや先生がいる位置に（例の図では右耳が良聴耳）、話し合いや会議、電車内などでも良聴耳側に話者がいると分かりやすいです。屋外では、非良聴耳側から車が近づいても気付かないことがあるので、良聴耳側を道路にすると良いです。

【補聴】 非良聴耳が重度難聴の場合、そちらに通常の補聴器を装用しても効果を感じられることが少ないため、使用される方はほとんどいません。しかし、一側性難聴の方を対象としたクロス補聴器というものがあります。これは、非良聴耳側にクロス補聴器を装用、良聴耳に通常の補聴器（受信機）を装用します。クロス補聴器が送信機の役割となり、キャッチした音をワイヤレスで受信機に届けて聞き取るしくみです。補聴器は耳穴を塞がないので良聴耳の聞こえは邪魔されません。

難聴児・者の困り感是人それぞれです。適宜、必要な配慮を一緒に考えていくことが重要です。

～聴覚障害委員会～



「聴覚障害委員会主催 研修会報告」

平成29年11月12日（日）千葉市生涯学習センター特別会議室にて、聴覚障害委員会主催の研修会を開催しました。『聴覚障害の基礎』と題して、同委員長の猪野真純（千葉県こども病院）氏が講義を担当し、その後、参加者に難聴体験をしてもらいました。

講義では、耳の構造から聴力検査、補聴器や人工内耳についてなど、聴覚障害に関する知識を幅広く取り上げました。特に聴力検査については、実際の検査場面の様子をビデオで観られたため、わかりやすかったと好評でした。

難聴体験では、①難聴者の聞こえ方体験、②読話体験、③難聴者の心理体験、を行いました。①は高音急墜型難聴や低音障害型難聴などの方々が、会話、音楽、環境音をどのように聞いているのかを体験しました。聴力型によって聞こえ方に大きな違いがあることに参加者の多くが驚いていました。②では口形のみで単語や文などがどれだけ読み取れるか体験しました。③では、参加者が順番に耳栓とヘッドホンを装着して疑似難聴者となり、カルタ大会をしました。前半は疑似難聴者に対する配慮なしで行い、後半はグループ内で考えた配慮をして取り組みました。配慮なしではカルタに参加できず疎外感を感じていた参加者も、読み手がマスクをはずしたり会話の開始を知らせたりする配慮を行うと、対等にカルタに参加できるようになりました。あらゆる角度から難聴体験をすることで、難聴児者への理解が深められたと思います。

以下に当日のアンケート結果をご報告します。参加者は15名、アンケート回収率は100%でした。

【講義】よく理解できた（12名）／だいたい理解できた（3名）／難しかった（0名）

【難聴体験】よく理解できた（12名）／だいたい理解できた（1名）／難しかった（0名）／不参加（2名）

【感想、ご意見、ご希望】（抜粋）

・耳栓をしてカルタ大会をしてみて、きこえにくいとイライラしたり、参加していても孤独な感じがしました。しかし、配慮されると分かることが増して自分も参加できていると思うことができました。STとして働いていて、お子さんに教えよう！やってもらおう！という気持ちが大きく、なかなかお子さんがどんな風に感じているのかイメージできていなかったことに改めて気づかされました。この気づきを大切にして日々の臨床を行っていきたいです。

・やはり、実際に体験することで分かることがあったと感じました。子どもたちだけでなく、保護者の方へも伝えていけたらと思います。

・自分はSTを目指す大学生だったためにこのような研修会があることを知れたけれど、もっと一般の人にも、このような体験をしてもらって障害のことを知って理解できる機会が増えたらいいなと思います。

（聴覚障害委員会）

◎◎◎職能部より◎◎◎

ワーク&ライフバランスコラム ～仕事と〇〇の両立～

「仕事と家庭の両立－恩師の言葉を胸に－」

千葉・柏リハビリテーション病院 遠藤 佑子

私は現在、千葉・柏リハビリテーション病院の回復期病棟で勤務しています。当院には、PT、OT、ST 合わせて約60名が在籍しています。家庭を持ちながら働いている職員も多く、家族や子供の体調不良時など、お互いにフォローし合いながら働いています。また、プライベートの時間も大切にしようという雰囲気があり、女性だけでなく、男性にとっても家庭との両立がしやすい職場環境だと思います。そのためか勤続年数が高い職員も多いです。

話は変わりますが、私は学生時代に恩師から ST になる心得として「ST たるもの幸せであれ」という言葉をいただきました。患者様とリハビリを進めていくにあたり、ST が患者様の話を聞く役割は大きい。時に患者様は混乱していたり、不安を抱えていたり、落ち込んでいたりする。そのような状況で、ST が話しやすい雰囲気を持っていることはとても大切であり、ST 自身が心にゆとりを持っている必要がある。ゆとりを持つための時間を作ることが大切だ。という内容のお話でした。実際に ST として働き始めてから、恩師からの言葉を胸に患者様に話しやすい雰囲気を感じてもらえるよう、心のゆとりを持つことを心がけてきました。患者様が入院生活でのストレスや病気に対するご本人の受け止め、退院後の生活で不安に思っていることなどを ST の訓練時に話してくださり、それをチームに発信する場面もあります。私が「幸せ」であるためには、家族と過ごす時間を充実させることが大切だと考えています。共働きなのでなかなか時間がないのが現状ですが、普段はできるだけ夕飯を一緒に食べるようにして会話をする時間を設けるようにしています。時には、一緒に旅行に行くなどして気分転換をするようにもしています。家族のサポートがないと私自身も仕事を続けることはできないと思うので、感謝の気持ちを伝えるようにしています。家族と過ごす時間が充実していると仕事も前向きに取り組める気がします。今回、このコラムを書かせていただく機会を得て、ST として患者様に寄り添う姿勢を作ること、無理なく長く働くことにおいて、仕事と家庭の両立が重要であることを改めて感じました。また、リハビリはチームで動いているので、自分だけでなく皆が働きやすい職場であることも重要だと思います。私自身、きちんと両立できているとは言えず、先輩方からアドバイスをいただきながら試行錯誤している状況ですが、今後も家庭で過ごす時間も大切にしながら、職場の皆と長く一緒に働けるように職場の環境作りをしていきたいと思っています。

☆2年間にわたり、「ライフワークバランスコラム」では、仕事とプライベートな生活の関わりについてコラムを掲載してきました。今回で一度終了とさせていただきます。みなさまの仕事と生活について考えるきっかけになれば幸いです。

◎◎◎災害リハビリテーション委員会より◎◎◎

「千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）研修会」

災害リハビリテーション委員会 栗林 真里

平成30年1月27日に開催された第3回千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（C-RAT）研修会に参加させて頂きました。今回は、市川 滋子さん（千葉県健康福祉部 健康づくり支援課 副技監）と會川 裕子さん（大分県リハビリテーション支援センター 事務長兼運営部長補佐）をお招きし、災害時の保健師の視点による活動や連携と九州北部豪雨災害の際の大分 JRAT の活動について講演を行って頂きました。災害が発生した際には、規模により派遣方法も異なりますが、混乱の中で様々な団体が共に協力し活動を行うことになります。そのため、平時から取り組まれている地域リハビリテーション活動が、災害時に大切な迅速な対応・正確な情報収集といった点でも活かされるのではないかと思います。また、今後 C-RAT の災害マニュアル作成や災害発生時に活動を共にして下さる仲間の輪を広げるための活動も同時に実施していかなければならないと感じました。

災害リハコラム「JIMTEF について」

今回は、災害医療研修等の活動を行なっている JIMTEF（公益財団法人 国際医療技術財団）についてご紹介致します。

JIMTEF は、貧困や紛争、自然災害など様々な理由で満足な医療サービスが受けられない状態に対して、保健医療分野の課題の解決に必要な不可欠な医療技術の振興や医療技術者の育成、医療サービスの改善に取り組むべく、1987年に創設された国際協力 NGO です。日本言語聴覚士協会を始め、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本栄養士会など、21の医療関連職種団体が加盟しています。

この JIMTEF 活動の一つに「災害医療研修」があります。この研修会は「ベーシックコース」と「アドバンスコース」の2種類からなり、大規模災害発生時の多種多様な状況に適切に対応できる技術・知識を有する医療技術者の育成を目指し、過去の災害医療の実際や災害時における避難所運営、メンタルケア、後方支援など、講義やグループディスカッションを通して学ぶことができます。2017年末までに全国で1,127名（うち、ST89名）の方々が受講されました。

この JIMTEF 研修への参加には、基本的に加盟団体からの推薦が必要となります。私たちであれば、当会から日本言語聴覚士協会へ推薦し受講に至る事となっております。災害医療や災害リハに興味があり、JIMTEF 研修を受講したい方は当会災害リハビリテーション委員会までご連絡下さい。

◎◎◎地域リハビリテーション委員会より◎◎◎

私の地域リハビリテーション

松戸市立福祉医療センター東松戸病院

坂本 和哉

私が勤務している松戸市では昨年9月に松戸市リハビリテーション連絡会を設立することができました。今回は連絡会の設立に至る経緯と、設立後の活動内容についてご報告させていただきます。

現在、各市町村レベルで、リハビリテーション専門職の連絡会や連合体等の設立が行われ、地域リハビリテーション活動支援事業に対する参画方法についての検討や活動が始まっています。松戸市ではリハ職が介護予防に関わりたくても行政とのやり取りがわからない、松戸市行政もリハ職との協働を検討しているが窓口が無いため依頼が出来ないと言う状況にありました。平成28年10月に在宅系事業所が中心となり、市内の医療機関や施設等へ声掛けを行い、PT10名、OT3名、ST3名による準備委員会を立ち上げました。月1回程度の会議を重ね、市内の急性期、回復期、生活期のリハ職が連携し地域の医療福祉の充実に寄与するという理念のもと、松戸行政、松戸市医師会、他専門職団体へ趣旨説明を行い、設立時、20法人、約300名の会員でスタートしました。

設立翌月には、松戸行政から市内全15か所の地域包括支援センターで行われる地域ケア会議への派遣依頼を正式に受け本格的な活動を開始しました。私も昨年11月に初めて地域ケア個別会議に参加しました。会議の内容は各地域包括支援センターごと、事前の事例情報の有無、一回の検討事例数、検討時間等に違いがある様です。私が参加した会議では、当日資料を渡され5分で読み込み、1事例50分程度の意見交換が交わされました。ST協会の研修会や県士会の模擬ケア会議を経験していたため、戸惑うことはなく臨むことができました。内容の詳細に触れることはできませんが、軽度認知症に関する事例であったため、その対応や地域資源についてリハ職として意見を述べました。今回のケア会議への参加に要した時間は移動を含め約90分、報酬はなく、病院の臨床業務を空けることになりました。介護予防事業に対する職場の理解が得られずに悩む方も多いと思いますが、松戸市では地域ケア会議への派遣依頼書を松戸市医師会からも発行して頂いたことで、職場の理解を得やすかったと多くの会員から聞きました。

来年度から認知症初期支援チームへの派遣も始まる予定です。また、会議参加と訪問評価に対して市から一定の報酬が支払われることになりました。リハ職への期待と受け取ると同時に、報酬に見合った役割を果たさないといけないという責務も同時に感じます。

この様に松戸市リハビリテーション連絡会では、地域リハビリテーション支援事業への関与が始まったばかりです。松戸市内で関心のある方の参加をお待ちしております。

◎◎◎介護保険委員会より◎◎◎

介護保険委員会主催 実技講習会「作って 食べて 口腔ケア」

去る平成29年10月15日(日)、らいおんハートリハビリデイサービス市川にて実技講習会「作って 食べて 口腔ケア」を開催致しました。参加者は14名でした。

午前は、講師に松林ケアセンター管理栄養士清水 宏美 先生による“楽しく作ろう♪おいしく食べよう♪嚥下キッチン”。午後は、東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科主任歯科衛生士大屋 朋子先生による「口腔ケアの基礎知識と実践」～おすすめの道具・介助方法や指導のコツを知る～をテーマに講義・実技と行いました。

内容は、とろみ剤によってとろみの付き具合の違いや飲み物によってもとろみの付き具合が違う事を、また食器や色合いによって同じメニューでも見た目からおいしさが違う事を説明頂きました。そして、嚥下食ではメニューがわからないと何を食べているのかが分からない事、実際に食べてみてユニバーサルデザインフードのどの規格かもわかっていなかった事を知る事ができました。

口腔ケアでの歯ブラシの種類、持ち方、角度、時間、順序、そして、保湿剤の使用方法、取り除くタイミングについて説明頂きました。そして、ST だからとリハビリをするために短時間で済ましてしまうが肺炎予防のためにも十分な口腔ケアが必要である。そのためには、ST のみでは困難なため多職種との連携が必要であると感じました。

どちらも自分が十分に理解していないのに関わらず、患者様や利用者様と関わっていたことを痛感しました。

講義では日頃の臨床で悩んでいることや食材や道具のことなどに明日から使える回答をいただくことができ、実技も真剣ながらも自然と笑顔や笑いもあり、楽しく有意義な時間を過ごせたことが印象的でした。また、STの視点になりやすい部分を専門職種としての見解からのお話をきくことができ、普段なかなか相談できない内容も確認していくことができました。

平成30年度は、診療報酬・介護報酬同時改定となります。そのため、介護保険委員会では、介護報酬改定に向けた研修会を企画しています。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。



午前の部の様子



午後の部の様子

文責：小野 幸男

◎◎◎吃音症委員会より◎◎◎

「吃音症診療に関するアンケートのお願い」

前号のコラムに引き続き、今号も吃音症臨床に関するアンケートのコラムになります。

日本では2013年に「日本吃音・流暢性障害学会」が発足し、また、2018年7月には広島で「吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018」が開催されます。県内においても臨床家・研究者・当事者が集まり勉強会をしたり中高生の相談に乗れる場を設けたりと、吃音症に対して社会的に意識の高まりを感じます。

その一方、医療機関等に繋がらずに相談・支援を受けられない方が多いのも現状です。本会宛にも多くの方から吃音症に関する問い合わせが届いております。相談者の方は、ご本人、ご家族、医療関係者と多岐にわたり、相談内容もさまざまです。しかしながら、本会も吃音症に関する情報が不足しており、相談者に十分に応えられているとは言えない状況です。

今回は会員の皆様へのお願いです。吃音症の診療・相談・支援を行っている施設の情報をご提供願えればと思います。今まさに困っている方々に適切な情報を提供し、相談先を増やしていくためには何が必要か、言語聴覚士職能団体としての役割を具体化していきたいと思います。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

※ 詳しくは別添の「吃音症診療等に関する調査票」をご覧ください。

※ なお、所属長の許可が必要な場合は、別添の「吃音症診療等に関する調査について（依頼）」をお使いください。

～吃音症委員会～



◇ 事務局より ◇

年会費納入のお願い

* 当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員	3500円	準会員	3000円
賛助会員 1口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします）			

未納分について

* 本年度は未納ゼロをめざします。平成28年度・29年度・30年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払いください。本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。（例：正会員の場合：3500円×2＝7000円）納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、県士会メールもしくは下記までご連絡下さい。

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

（記号番号）00120-6-39932

（加入者名）一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

（銀行名）ゆうちょ銀行 （金融機関コード）9900 （店番）019

（店名）〇一九（ゼロイチキュー店）

（預金種目）当座 （口座番号）0039932

（受取人名）イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田（はるた）寛之 043-462-8811（代）

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらっしゃいましたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ～ 変更届についてのお願い ～

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ (敬称略) | | |----------------------------------| | 会員数：正会員 451 名・準会員 16 名・賛助会員:6 団体 | |----------------------------------|

(平成30年2月11日 理事会承認分まで)

飛田留里 (千葉健生病院)	木村英人 (訪問看護ステーションけやきの木)
東谷明子 (セコメディック病院)	白濱光 (袖ヶ浦さつき台病院)
加瀬千里 (訪問看護ステーションスマイルリンク)	正木啓太 (聖母療育園)
川崎桃子 (下志津病院)	馬場雅之 (柏たなか病院)
石原明奈 (下総病院)	(届出順)

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成29年度 理事会

《第9回》日時：2017年11月5日(日) 13時00分～15時40分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、内田、太田、金子、清宮、齊藤、治田、宮崎(理事10名)、木下(監事1名)、宮阪(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県総合支援協議会について ・意思疎通支援事業について ・協会都道府県会長会議について ・兵庫県士会のアンケート ・後援依頼について ・千葉県新生児聴覚検査検討会報告 ・ニュースNo55、ニュース印刷費用について ・生涯学習プログラムについて ・平成29年度介護保険委員会主催実技講習会について ・平成29年第3回研修会のチラシについて ・千葉県社会福祉士会の地域集会の研修会講師について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第10回》日時：2017年12月10日(日) 13時00分～15時50分 場所：黒砂公民館 工芸室

出席者：吉田、岩本、金子、清宮、齊藤、治田、宮崎(理事7名)、宮下(監事1名)、今泉(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県総合支援協議会について ・協会都道府県会長会議について ・千葉県医療団体連携の会について ・吃音症診療等に関する調査について ・聴覚障害委員会主催研修会報告 ・脳卒中等連携の会について ・年賀状について ・摂食嚥下ネットワークについて ・平成29年第3回研修会のチラシについて ・認知症リハビリテーション専門職研修終了の報告 ・高次脳機能障害委員会主催研修会について ・来年度の予算について ・口腔機能管理(摂食嚥下機能等)支援事業について ・総会資料について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第11回》日時：2018年1月21日(日) 13時00分～16時分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、内田、太田、金子、清宮、治田（理事8名）木下（監事1名）、星野（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・総会資料について ・来年度小児言語障害委員会研修会について ・第2回いちばら認知症あんしんフェアについて ・来年度予算について ・高次脳機能障害委員会主催研修会の進捗状況の報告 ・失語症のある人向け意思疎通支援事業WGの発足について ・第3回研修会の進捗状況と確認事項について ・ニュース No. 56 構成案と日程、印刷・発送費用について ・千葉県医療推進協議会について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第12回》日時：2018年2月11日（日）13時00分～16時20分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、阿部、岩本、内田、金子、宮崎（理事6名）木下（監事1名）、今泉（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県医療推進協議会への参加について ・地域リハ支援事業への参加実績に関するアンケートについて ・平成30年度職場見学会の日程について ・聴覚障害委員会ニュース原稿（コラム・報告集） ・吃音症委員会ニュース原稿（コラム・アンケート調査） ・ホームページでの広告収入について ・平成30年度第1回研修会・共催研修会の役割分担について ・九都県土合同防災訓練について ・千葉県障害者計画について ・口腔機能管理（摂食嚥下機能等）支援事業について ・千葉県介護人材確保対策事業について ・新しい不動産管理会社について ・総会資料について

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成29年度 千葉POS連携推進会議 理事会

《第3回》日時：2017年10月12日（木）19時00分～21時15分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：吉田、岩本、齊藤 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会3名

・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修 ・介護予防活動普及展開事業 ・各市町村単位の連合体把握 ・災害の協定について

《第4回》日時：2018年1月11日（木）19時00分～20時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、齊藤 千葉県理学療法士会2名 千葉県作業療法士会4名

・千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修 ・各市町村単位の連合体把握 ・次年度の事業について

◆ 平成29年度 地域リハビリテーション委員会

《第3回》日時：2018年1月17日（水）19時00分～21時00分 場所：ジョナサン千葉駅前店

出席者：平澤、香川、藤井、坂本、岩本

・来年度の計画、予算 ・初期研修 ・認知症あんしんフェア ・老人性難聴のリーフレット作成 について 他

◆ 平成29年度 生活期リハビリテーション合同研修実行委員会

《第7回》日時：2017年11月1日（水）19時00分～21時20分 場所：東京湾岸リハ病院

《第8回》日時：2018年1月25日（木）19時00分～21時00分 場所：東京湾岸リハ病院

出席者：小野、勝又

・研修会打ち合わせ ・今年度の振り返り ・来年度の取り組み、他

◆ 平成29年度 災害リハビリテーション委員会

《第3回》日時：2018年1月31日（水）17時30分～18時30分 場所：旭神経内科リハビリテーション病院

出席者：太田、栗林、平山

・H30年度の九都県市合同防災訓練について ・災害リハビリテーション委員会 来年度予算について ・災害リハコラム（ニュース No. 56）について ・発災時の連絡系統について

◆ 平成29年度 聴覚障害委員会

《第1回》日時：2017年4月23日 場所：プラザ菜の花

出席者：猪野、齊藤、黒谷、石渡、大壺

・今年度の役割 ・コラム ・研修会

《第2回》日時：平2017年7月2日 場所：プラザ菜の花

出席者：宮崎、猪野、齊藤、黒谷、石渡、大壺

・研修会

《第3回》日時：2017年10月8日 場所：プラザ菜の花

出席者：宮崎、猪野、齊藤、黒谷、石渡、大壺

・千葉県新生児聴覚検査検討会報告 ・研修会 ・パンフレット

《第4回》日時：2017年11月12日 場所：千葉市生涯学習センター

出席者：宮崎、猪野、齊藤、黒谷、大壺

・研修会の反省 ・来年度研修会計画 ・来年度予算

《第5回》日時：2018年2月18日 場所：プラザ菜の花

出席者：宮崎、猪野、齊藤、黒谷、石渡、大壺

・千葉県新生児聴覚検査検討会報告 ・来年度研修会計画 ・来年度活動計画

◆ 平成29年度 吃音症委員会

《第1回》日時：2017年5月28日 場所：千葉市民会館

出席者：宮崎、鈴木、遊佐、花房

・役割、活動内容の検討

《第2回》日時：2017年8月2日 場所：Beckers 柏西口店

出席者：宮崎、鈴木、遊佐、花房、柳澤

・吃音症臨床についての調査 ・コラム ・パンフレット

《第3回》日時：2017年11月8日 場所：Beckers 柏西口店

出席者：宮崎、鈴木、遊佐、花房

・吃音症臨床についての調査 ・研修会 ・情報共有

◆ 平成29年度 介護保険委員会

《第1回》日時：2017年6月10日（土） 19時00分～21時00分

場所：サイゼリヤ アクロスモール新鎌ヶ谷店

出席者：阿部、小野、山崎、牛山、齊藤、末藤、加藤

・今年度の役割について ・今年度の活動計画について ・主催勉強会について

《第2回》日時：2017年9月1日（金） 19時00分～21時00分

場所：サイゼリヤ アクロスモール新鎌ヶ谷店

出席者：阿部、小野、牛山、加藤、齊藤、末藤、山崎

・研修会の内容確認 ・平成30年度介護保険改正について

《第3回》日時：2017年10月15日（日） 16時00分～17時00分

場所：らいおんハートリハビリ温泉デイサービス（らいおんデイサービス市川）

出席者：阿部、小野、牛山、齊藤、末藤、山崎

・研修会の反省 ・平成30年度介護保険改正について ・平成30年度計画について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）



CD版

そのまま使える

失語症教材 ①

監修：鈴木 勉 宇野園子 教材制作スタッフ：約30名の言語聴覚士

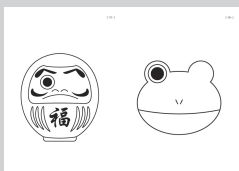
CD-ROM (PDF A4判 1116頁) 6,480円

印刷すればすぐに訓練に使うことができ、また失語症の方の自習にも役立ちます！

教材は失語症臨床に不可欠です。失語症状は多様であり、また失語症者の背景も様々なので、それぞれのニーズに合った最適な訓練を提供するには、多くの教材を用意しておくことが望ましいと思います。しかし自力で教材を作るには、時間的にも技術的にも限りがあります。そこで多くのSTが力を合わせて様々な教材を作成しました。およそ30名のメンバーにより、約1年かけて4種類の教材ができましたので、それを収めたCDを制作しました。内容は、絵の完成(書く準備)・情景画・4コマ画・文章読解です。

※本教材を使うには、pdfの「しおり」機能を使えるAdobe Acrobat Reader DC(無料でダウンロード可能)等が必要です。

絵の完成 (書く準備)

トレース課題 30頁 / 絵の完成課題 200頁
付録 検索&印刷用アプリ

情景画

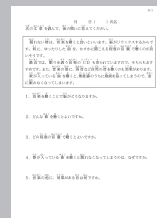
基本画 10頁 / 番号付情景画 10頁 /
単語リスト 10頁

4コマ画



系列画 25頁 / 漫画 25頁

文章読解



問題 650頁 / 解答例 130頁



物品と動作の呼称検査

An Object & Action Naming Test

著：佐藤ひとみ 全セット(リング綴じ刺激絵カラー図版 5冊(A5判) / CD-ROM / 記録用紙 / 手引書(A4判 64頁) / ケース) 37,800円 手引書のみ 2,700円

単語属性と健常者100名のデータを基に開発—脳損傷患者の言語臨床に最適！

物品/動作呼称を的確に評価するための条件が整っています。

- 刺激語の厳密な選定
- 吟味された刺激絵
- 呼称障害の臨床研究に必要なデータも充実
- 呼称セラピー立案にも有用

イラストは全てカラー！

名詞54語 動詞54語
自動詞14語

構文教材 基本文編

音声ペン対応

著：藤田郁代 絵カード(67サイズ) 208枚 / 山見出しカード4枚 / 保管用ケース 7,560円

失語症がある方や、ことばの発達が遅れているお子さん向けの、構文指導・訓練教材！

この教材は文処理の複雑度が異なる「非可逆文」「可逆文」「自動詞・他動詞の対応」「接続文」208個の文をイラスト化していますので、文を段階的に取り上げるうえで役立ちます。別売の音声ペンでカードのイラスト面をタッチすると文章面に書かれている文の音声再生されます。

▼使用方法の動画はこちら



音声ペン(ActVoicePen) アクトボイスペン 簡単操作で音声を再生、録音！ 自作用シール100枚 / ACアダプター付 9,720円

発達障害のある人とのコミュニケーションに役立つ
コミュニケーションパートナーハンドブック

編・著：佐竹恒夫 倉井成子 東江浩美
構成・編集：大岡千恵子 協力：NPO法人言語発達障害研究会
B5判 212頁 2,916円



株式会社 エスコアール

http://escor.co.jp
〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3TEL: 0438-30-3090
FAX: 0438-30-3091

●上記の商品はホームページから送料無料でお願いいたします。 ●価格は消費税込です。



編集後記

今年度も終わりですね。あっという間の1年間でした。

平成30年度は、診療報酬・介護報酬同時改定もあり、また1年が早く過ぎそうです。

新入職員も入ってくるかと思います。

新たな気持ちで、新年度を迎えましょう！

編集部 太田

発行所：一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人：吉田 浩滋

編集人：編集部 太田 直樹

事務局：〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：<http://chiba-st.com/> 会員専用パスワード：cast5

印刷：社会福祉法人大成会 成田市のぞみの園